

令和5年度 (令和5年4月~令和6年3月)

滋賀大学附属図書館の特色ある活動報告

滋賀大学附属図書館の概要

1. 本館

場所 彦根キャンパス(経済学部・データサイエンス学部)

彦根キャンパス

蔵書 404,748 冊 (令和 6 年 3 月末) 入館者数 104,253 人 (令和 5 年度)

2. 教育学部分館

場所 大津キャンパス (教育学部) 蔵書 266,133 冊 (令和 6 年 3 月末)

入館者数 47,665 人(令和5年度)



大津キャンパス

重点領域1:知の共有

1. オープンアクセスの推進

本学における研究成果のオープンアクセス化を推進するため、「国立大学法人滋賀大学オープンアクセス方針」を制定した。さらに、学術論文の OA 化に必要となる APC の負担を軽減するため、Elsevier 社の「Science Direct®」において令和 6 年度から転換契約(Read & Publish 契約)への移行を決定し、学内教職員向けの説明会を開催した。また、研究推進課においても APC 支援のためのオープンアクセス化支援事業を令和 6 年度から公募しており、全学的な体制で OA 化推進に取り組んでいる。

2. シラバス指定図書を中心とした電子ブックの整備

令和 5 年度はシラバス指定図書など学生の需要度が高い資料を中心に電子ブックの選定を進めた。また、シラバス指定図書を電子ブックで利用できるという利点を効果的に P R する等、学部カリキュラムとの連携の観点からも、電子ブックを含めその他電子資料の利活用が促進されるよう、対応を進めた。

3. 古典籍・漢籍の目録登録

教育学部分館で所蔵する古典籍・漢籍(彦根藩弘道館旧蔵書を含む)について、OPACでの検索を可能とするべく、引き続き登録を進めている。また、学長裁量経費を活用して一部資料のデジタル化を行い、「国書データベース」にて公開したほか、本館・教育学部分館にてパネル展「知のネットワーク 彦根藩で集めた人教えた人」を行った。



パネル展の様子

重点領域2:知の創出

1. 各企画展示の実施(彦根・大津両キャンパス)

本館・教育学部分館にて、「図書館利用のすいめ」、「図書館資料はこう探す!!」、「レポート・論文に役立つ本」等、時宜に即したテーマで図書館員のアイデアと多種多様な蔵書を活かした企画展示を行った。

また、令和 5 年度は経済学部が創立百周年であったため、本館(彦根キャンパス)では経済学部教員と連携し、記念パネル展:「附属図書館の追憶」と「Ex Libris 東アジアへの眼差し」(二つをテーマ)を開催した。その他、本学所蔵の貴重書展示として 18 世紀フランスの哲学者コンディヤックの著作集の展示をし、監修の経済学部教員によるギャラリートークを開催した。また、経済学部グローバル・コース所属学生による企画「BB(Banned & Challenged Books)」展示を行った。

教育学部分館(大津キャンパス)では「1930年代の郷土読本」をテーマ に、本学教育学部教員監修のもと、教科書展を実施した。



経済学部百周年記念パネル展





教科書展

2. リユース本の活用 (彦根・大津両キャンパス)

本館・教育学部分館にて、随時「持ち帰りコーナー」を設置している。また、本館では4年振りとなる「図書リユース市」を10月30日(月)~11月1日(水)に開催した。教職員から提供された不要図書や図書館の除籍図書のリユースを推進し、学生の図書館や図書への興味を高める契機や勉学交流の場として、有意義な活動となっている。

3. 学生を対象とした文献取り寄せサービスの費用支援を実施(彦根・大津両キャンパス)

本館・教育学部分館ともに、学生が文献取り寄せサービスを利用する際の費用を図書館予算で負担し、レポートや論文等に必要な資料の入手を支援した。

4. 公式 X (Twitter)・LINE アカウントの活用(彦根・大津両キャンパス)

本館・教育学部分館ともに、図書館に関する情報提供や問い合わせ対応等の補助ツールとして、 公式 X (Twitter)・LINE を活用し、図書館の PR や利用者の利便性向上を図っている。特に今年度 は本学学生広報サポートチームの Instagram とも連携して展示の紹介を行った。

重点領域3:知の媒介

1. 職員の能力習得・向上への取組

- ・登壇:第25回図書館総合展関連企画 ユーザーグループ SNS イベント (ファシリテーター)
- ・研修等参加:第 21 回日本古典籍講習会(配信受講)、第 25 回図書館総合展 NII フォーラム、JUSTICE 電子資料契約実務研究会、学術情報流通に関する連続セミナー 等
- ・訪問調査:古典籍電子化に関する知識習得を目的とした他機関視察

令和5(2023)年度 滋賀医科大学附属図書館の特色ある活動報告

◆図書展示

多彩なテーマで、教員や学生、学内外イベントとの連携企画を多数実施した。

- ・新入生歓迎企画「本学教職員がすすめるこの本 2023」(4/3~5/19)
- ・新生活応援(4/4~5/12)
- ・滋賀県大学図書館のおすすめ本 2023 (6/6~7/7) ①
- ・就活・面接対策本(6/8~7/31)
- ·一夏一冊 ~家庭医療・総合診療編~ (7/27~9/15) ②
- ・涼しくなりたーい (8/17~9/26)
- ・徳田安春先生著作展示 (9/8~10/6)
- ・リレー・フォー・ライフ関連図書(10/11~11/10)
- ・アカデミックライティング $(10/10\sim11/10)$
- ・男女共同参画推進フェア: NWEC 所蔵図書展示 (11/16~1/31)
- ・学生ソロ選書 2023 (11/17~1/19)
- ・Hello world! プログラミング (11/28~12/27)
- ・本で綴る日記の世界 (2/13~3/15)



①滋賀県大学図書館のおすすめ本 2023



②一夏一冊 ~家庭医療·総合診療編~ 展示監修の松井先生と

◆研究倫理教育研修会の開催(研究推進課と共催)

- ・(7/7)「適切な研究データ管理の実現のために」講師:込山悠介氏(国立情報学研究所)、本山一隆氏(本学情報総合センター)、伊藤美樹子氏(本学看護学科)
- ・(11/21)「研究インテグリティの確保に向けて」 講師: 小笠原敦氏(本学研究活動統括本部)





◆情報リテラシー教育の実施

対面、オンデマンド、対面と遠隔の併用等、さまざまな形式により講義や研修会を実施した。 新入生オリエンテーションでは、健康診断の空き時間を活用し4年ぶりに館内ツアーを行った。

- ・(4/4・5)新入生オリエンテーション(医・看1、医編入2:172名)
- ・(4/26)看護師特定行為研修生オリエンテーション(26 名)
- ・(5/1,2)情報科学(医・看1:157名)
- ·(5/8)医学総合特論(博士:23 名)
- ·(5/9)基礎医学研究入門 I (医 1,2:31 名)
- · (5/11,6/19,7/14)看護部研修会文献検索講習会 (73 名)
- ・(7/6)UpToDate 利用説明会 (14名)・登録会 (20名)
- · (7/12,19)看護学研究方法論 I (修士:10 名)
- ・(9/8)看護師特定行為研修生オリエンテーション(11名)
- (10/16)アカデミックライティング(医1:94名)
- · (10/23)看護学研究方法論(看 2:58 名)
- · (11/14)看護学研究方法論IV (修士:6名)
- ・(1/16) 臨床実習オリエンテーション (医 4:126 名)
- ·(1/17) アカデミック・スキル (看 1:59 名)
- · (1/22~25, 2/5) 文献検索講習会 (看 3:52 名)
- ・(通年)脳神経内科臨床実習文献検索講習会(医5)

◆オープンキャンパス・高大連携事業への参加

4年ぶりにオープンキャンパスや高大連携事業での施設案内が実施され、参加者に館内案内を行った。

- ・(8/17・18) 医学科オープンキャンパス (約 100 名)
- ・(8/22) 看護学科オープンキャンパス(約60名)
- ·(9/25) 高大連携事業(初芝富田林高等学校)(26 名)



◆著作権に関するサポートの提供

- ・授業目的公衆送信補償金制度の申請と分配補償金受領の手続きを担当した。
- ・著作権に関する相談窓口として教員や学内他部署からの問い合わせに対応した。

◆ブックレビューキャンペーン - Into the Book Jungle - 開催

· 対象: 本学構成員 (学生・院生・教職員)

·期間:10/23~12/25

教養教育支援、読書推進を目的に、OPAC の機能を使ったブックレビュー投稿キャンペーンを実施。ブックレビューを投稿した人にオリジナルタンブラーを進呈(1人1つ)。 タンブラー(台紙)のデザインは職員が担当。

*基礎医学教育・地域医療教育改革担当副理事の医学看護学教育センター教授から、教養教育充実のために配分を受けた予算を活用



◆環境活動:グリーンカーテン設置

- ・園芸部の学生との協働で、図書館の中庭にゴーヤのグリーンカーテンを設置。
- ・20個ほどを収穫することができた。

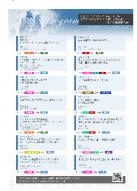




◆国立大学図書館協会近畿地区協会事業

・「大学におけるデジタル技術の活用に関する事例報告会」 10/2-12/15 国大図協公式 YouTube チャンネルで限定公開 10 大学による DX 事例紹介





(最終動画再生回数:5,815回)

◆学生ソロ選書

- ・「ひとりで・気軽に・ふらっと」書店で選んでもらうスタイルでの学生選書を実施した。
- ・選書期間:8/4~8/13の期間中いつでも
- ・選書対象書店:ジュンク堂草津店、丸善京都本店、ジュンク堂大阪本店、 MARUZEN&ジュンク堂梅田店、ジュンク堂松坂屋高槻店



◆若鮎祭ブックバザール

・不要になった図書・雑誌を無料で譲る学園祭でのブックバザールを4年ぶりに実施した。



◆医書.jp トライアル

・図書館備付和雑誌見直しの一環として、国内の医学系主要学術雑誌 122 タイトルがオンラインで読める医書.jp の来年度からの導入を目指しトライアルを実施した。

2024年4月京都大学図書館機構

1. オープンアクセスの推進と研究活動支援

(1) EJ 転換契約の拡大

2023 年 1 月から Wiley 社との契約、2024 年 1 月からは SpringerNature 社との契約において、電子ジャーナル購読料と APC(Article Processing Charge:論文処理費用)を包括した転換契約を導入した。また、Elsevier 社との契約においても、図書館協議会等学内での議論を進め、2024 年 4 月から転換契約を導入する予定である。

(2) 京都大学附属図書館における研究データ管理・公開に関する実施方針の制定

「京都大学研究データ管理・公開ポリシー」に基づき、部局としての附属図書館での研究データの取り扱いに関する考え方を示す「京都大学附属図書館における研究データ管理・公開に関する実施方針」を2023年9月に策定した。

(3) RDM 支援実践事例の日本語化事業が国立大学図書館協会賞を受賞

「GakuNin RDM を活用した大学間共同作業:海外における RDM 支援実践事例の日本語化事業」が令和5年度国立大学図書館協会賞を受賞した。

(参考)海外における RDM 支援実践事例の日本語化事業ワーキンググループ (京都大学図書館機構、大阪大学附属図書館、神戸大学附属図書館、奈良教育大学図書館、奈良女子大学学術情報センターの共同事業) 『データ管理で研究者と協力するために:クックブック』 https://doi.org/10.14989/267606

(4) ウィーン大学との研究データ管理等についての意見交換

京都大学と戦略的パートナーシップ校のウィーン大学との国際協定に基づき 2023 年 6 月に職員を派遣し、研究データ管理等についての研修プログラムに参加した。また、2023 年 8 月には、国立情報学研究所公募型共同研究「大学における研究データマネジメント支援サービスアーキテクチャに関する国際比較研究及び開発方法論の整備」の一環として、ウィーン大学研究データ管理担当者を招へいし、研究データ管理等について意見交換を行った。





2. 学修・教育支援の推進

(1) 図書館機構 YouTube チャンネルの開設

図書館講習会のDX推進の一環として、講習会動画等を広く公開するプラットフォームの整備と合わせ、学内図書館・室で連携してコンテンツを作成する体制を構築した。

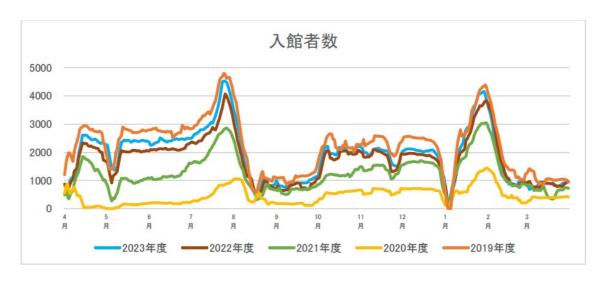
(参考) 京大図書館きこうチャンネル

https://www.youtube.com/@kulibrarynetwork/



(2) ポストコロナの図書館利用状況

新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行に伴い、各図書館・室においてサービスの見直しを行った。一例として、附属図書館では 5 月連休明けをもって、閲覧空間の利用制限や消毒実施等の対応を取りやめ、従来のサービス体制に戻した。入館者数は、2024年3月末時点で、コロナ禍前の 2019年度の8割6分程度までに回復している。



3. 豊富な学術資源の活用と社会貢献

(1) 貴重資料電子化の推進

仏教学研究の基盤的資料であると同時に、世界の漢籍研究においても重要な資料である附属図書館所蔵「蔵経書院文庫」から、262 タイトルを新たに電子化・公開した。このことにより、仏教学及び関連分野の研究活動に貢献した。また朝廷の諸公事に関わる資料や音楽書、日記資料が多く含まれる「菊亭文庫」の電子化を継続して実施しており、本年度はこのうち典籍の一部と掛軸資料の合計 367 点を公開した。文学研究科が所蔵する重要文化財『大日本史編纂記録』第 51 冊から第 55 冊までの214 画像や東南アジア地域研究研究所所蔵「景福寺資料」全 98 点、総合博物館所蔵「教王護国寺文書」311 点(重要文化財)、「斑島文書」14 点(プリンストン大学との連携事業)も公開した。

(2) 教員・院生と連携した「菊亭文庫」調査の実施

大正年間に寄託された「菊亭文庫」1,833 点が、2020 年度に寄贈されたのを機に、2021 年度から 学内の教員・院生と図書職員が連携して、悉皆 調査と目録作成を開始した。これにより、教育 での史料活用や図書職員の古典籍に係る知識の 向上を実現している。なお、調査成果は 2024 年 度以降の公開を予定している。



(参考) 菊亭文庫 https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/collection/kikutei

4. 全学図書館機能の基盤整備

(1) 京都大学図書館機構長賞の創設

京都大学図書館の機能向上に貢献し、本学所属の学生教職員の学術研究を促進した図書館活動、もしくは本学図書館の有する資料等を活用し社会貢献を行った図書館活動を表彰するために京都大学図書館機構長賞を設けた。令和5年度の選考を実施し、6件の活動に賞を授与した。

(参考) 京都大学図書館機構長賞

https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/about/1398532



(2) 図書館システムの全面リプレイス

2023 年 8 月に図書館システムのリプレイスを行い、入札の結果、富士通 Japan 社の iLiswave-J から NEC キャピタルソリューション社提供の E-Cats Library に変わることとなった。昭和 60 年の初期導入以来、富士通社の図書館システムを使用してきたため、約 40 年ぶりの全面リプレイスとなった。そこで、各部局図書館・室から 20 数名の図書系職員を集結した図書館システム検討 WG を

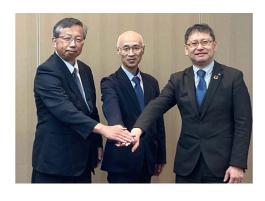


組織し、この大プロジェクトにあたった。2023年1月以降、要件確認、機能設計、マスタ・移行設計、評価環境でのテスト、基本操作マニュアル作成、職員向全学試行等々、約8か月にもわたる移行準備作業を乗り切り、2023年8月にE-Cats Libraryでの業務を無事にスタートさせることができた。

新 KULINE(京都大学蔵書検索)では、他キャンパス図書の予約・取り寄せが便利 になったほか、オンラインで施設予約開始、レスポンシブデザイン対応によるスマートフォンでの操作性改善など、利用者サービス向上を達成した。

(3) 京阪神3大学図書館の連携・協力活動に係る協定書の締結

京阪神の3 大学図書館(京都、大阪、神戸)が新たな大学図書館機能の実現に向けて連携・協力して取り組むための協定を2023年6月に締結した。3 大学の図書館職員が、現場レベルで交流・協働することによる、業務の省力化・高度化を図ることを目的としている。主な連携・協力事項として、学術情報資源の確保(電子ジャーナル契約等)、学術情報資源の創出(デジタルアーカイブ等)、研究成果発信の支援(機関リポジトリ等)、ライブラリー・スキーマの検討、共通項目による利用者アンケートの実施などに取り組んでいる。





協定式で手を重ねる土佐神戸大学附属図書館長、 永盛京都大学附属図書館長、尾上大阪大学附属図 書館長(左から) 京阪神デジタルライブラリーのロゴ

令和5年度 京都教育大学附属図書館 特色ある活動報告

1. 蔵書の充実と利活用

● 電子書籍の購入強化

「Maruzen eBook Library」「KinoDen」の試読を実施。 135 タイトルを購入し、新着資料を掲示するなど利用促進 を行った。

● 学生参加の選書企画

- ・話題書の購入「リクエストと投票で話題の本を読もう」 学術研究・教養目的以外の、学生からのリクエストを含む 新刊や話題書等を対象に、利用者が投票して、得票数の高 いものを購入する企画。授業期間中に隔月で実施。
- ・選書ツアー (ブックハンティング) の実施 店頭実施 年 2 回 11 名参加 115 冊購入

2. 学修支援

● 学修支援員の配置(平成27年10月~継続)

大学院生による学修支援員の分野を理系のみから他分野にも拡大し、ラーニングコモンズに配置。対面授業実施中の月~金に実施のほか、Web フォームによるオンライン相談の受付を開始。後期には学修支援員が企画・実施するミニ講座(30分)も実施。

● 各種講習会の開催

- ・論文検索講習会、データベース検索講習会を実施。
- ・オーダーメイド講習会(教員の要望に合わせ内容・時間を指定できる講習会)を実施。

● 学生への ILL 利用支援

- ・近畿地区四教育大学間で協力し、学生が利用する相互貸借送 料を図書館等で負担、利用支援を行っている。
- ・NDL デジコレ図書館送信分の複写料金無償化(教員も対象)。学生7件、教員10件。

● 初年次教育科目における新入生図書館ガイダンスの実施

Kyokyo スタートアップセミナー (1 回生前期) において、対面授業形式で図書館ガイダンスを実施。(5/22~6/8 全 9 回実施、13 専攻 329 名)







3. 授業/他部署/地域等との連携

- 授業等と連携した図書展示や教員・学生による企画展示
 - ・保育士試験対策コーナー (6/5~7/1, 後期も実施予定)
 - ・ブックレポートコーナー (6/29~8/8, 1/5~1/31)

学部 1 回生対象の授業と連携し、ブックレポート課題で読んだ図書及びレポートを 展示

- ・中庭コンサート (6/8) 「器楽基礎演習」の授業成果発表
- **うたとおはなしの会の開催 幼児教育科と共催**(4/22、12/16 定員 50 名) 幼児教育科の学生による幼児向けイベントを 2022 年度より再開。人形劇やストーリーテリングなど。
- 第5回教育展 (附属図書館主催・教育資料館共催 11/10~12/27)『大学の授業~理学編~』を企画展示室で展示。
- 教育資料館「今月の逸品」展示協力附属図書館1階渡り廊下にて、資料館収蔵品を展示。(2ヶ月毎に展示替)
- 公立図書館等との連携

京都府立図書館を中心とする府内図書館連携 K-Libnet に参加、連絡車による相互貸借を実施。2023 年度実績:貸出 64 件、借受 45 件

- 中学生の「職場体験」事業などへの協力
 - 6月に京都市立深草中学校より「チャレンジ体験」の生徒2名受入。
 - 9月に京都市立藤城小学校より「まちたんけん」活動のインタビューを受入。
 - 10月~11月に京都市立藤森中学校より「チャレンジ体験」の生徒2名受入。









京都工芸繊維大学附属図書館 令和5年度特色ある活動の報告

- 1. ML(ミュージアム・ライブラリー)連携
- ML(ミュージアム・ライブラリー)連携企画展示

平成 30 年度より ML 連携企画と題して、美術工芸資料館と附属図書館が連携し企画展示を実施している。

・企画展示「村野藤吾と長谷川堯―その交友と対話の軌跡」関連図書 展示

展示期間: 令和5年3月22日~6月28日

・「建築家・鬼頭梓の切り拓いた戦後図書館の地平」関連図書展示展示期間:令和5年3月22日~7月25日

鬼頭梓+鬼頭梓の本をつくる会『建築家の自由』をはじめとする関連図書・雑誌、図書館史や日本と世界の図書館に関する資料の展示を行った。



- ・「日々是探究:京都高等工芸学校教員たちの模写と手習い」関連図書展示展示期間:令和5年11月22日~12月28日
- シンポジウム「鬼頭梓の建築から考える図書館の未来像」開催

令和5年6月10日(土)、図書館、出版、建築それぞれの分野からゲストを招き、鬼頭梓建築についての講演と、本と図書館をめぐる討議を行った。

また、講演内容に関連する図書館について、模型製作した学生が図書館建築を紹介したうえで、各ゲストに講演いただくプログラム構成とした。

シンポジウムには112名の参加があり大変好評を得た。

講師:江竜 喜代子(元湖東図書館館長,現能登川図書館館長)

佐田 祐一 (佐田祐一建築設計研究所)

島田 潤一郎 (夏葉社代表)

松隈 洋 (神奈川大学教授, 京都工芸繊維大学名誉教授)

当日の様子は、本学附属図書館の YouTube チャンネルにて期間限定で公開した。



シンポジウム会場風景



会場入口で講師関連書籍の展示を行った

2. 情報発信、イベントの開催

●「学生選書」の実施

令和5年11月16日(木)~11月30日(木)にかけて、学生ボランティアによる「学生選書」を実施した。

書店店頭での選書に加え Web 選書も可能とし、参加学生 14 名によって 57 冊の図書が選ばれた。

学生から選書した1冊についてお薦めコメントを提出してもらい、図書館 X にてコメントを順次紹介している。



学生から選書された本を展示

● 図書館総合展ポスターセッションへの参加

令和5年10月24日(火)・25日(水)の両日、パシフィコ横浜で開催された第25回図書館総合展のポスターセッションに出展した。附属図書館の特色あるコレクション、美術工芸資料館との連携企画などの特徴的な活動について発信した。

● 寄贈に合わせた企画展示

元大阪市立美術館学芸員 土井久美子氏のご遺族より、日本美術 工芸の在外コレクション関係資料 2080 冊の寄贈を受けた。 また、寄贈に合わせて企画展示を行った。



企画展示の様子

3. 学修支援·研究支援

図書館利用ガイダンス

応用生物学課程・応用化学課程1年次の授業科目において、図書館職員による図書館利用ガイダンスを実施した。

内容は主に OPAC 及び各種データベースを使った情報検索の説明と実習を行った。

2023(令和 5)年度 大阪大学附属図書館

国大図協ビジョン 2025 に基づく特色ある活動 近況報告

重点領域 1. 知の共有:<蔵書>を超えた知識や情報の共有

目標 |-|:教育研究成果の発信、オープン化と保存

■ 全学的な「オープンサイエンス推進室」への参画

室長:理事·副学長(研究、国際(研究)、情報推進、図書館担当)·附属図書館長

室員:全学の研究・情報の関連部局の教員・事務職員

- ・研究データ管理基盤の整備・公開基盤の構築に向けて活動
- ・附属図書館からも研究開発室教員と職員が参画※研究開発室の体制強化:2023年 II 月、特任研究員(常勤)が着任
- 全国的な「AI 等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」への参画

中核機関:NII

共同実施機関:理化学研究所、東京大学、名古屋大学、大阪大学

- ・附属図書館研究開発室の専任教員を中心に、「人材育成チーム」を担当
- ・学内教員向け研修動画を作成し学内の授業支援システムに掲載
 - ・「オープンアクセスを巡る状況と大阪大学におけるオープンアクセス支援」 (2023 年 6 月) ※経営企画オフィス URA 部門と共催の新任教員研修プログラム
 - ・「オープンサイエンス時代における研究データマネジメントの基礎について学ぶ」(2023 年 10 月)
 - → 多数の教員がオンデマンドで受講
 - → 今後一般化した上で全国展開を予定
- ・Python 活用基礎研修を実施(2024年3月)研究データに関わる研究・教育支援業務を担う学内の教職員等向け
- 機関リポジトリ「大阪大学学術情報庫 OUKA」への登録推進
 - ・リポジトリ登録支援システム(論文登録申請等の研究者の負担軽減を図る) 研究データ登録のための機能改修を実施
 - ・<u>グリーン OA ラボ事業</u>(研究推進部との協働) モデルケースとして特定の研究室を選出し、集中的に支援を行うことで、研究室単位で のグリーン OA 化を推進
 - ・学内貴重資料のデジタル・アーカイブ化、<u>IIIF対応</u>(学内のグローバル日本学教育研究 拠点デジタル日本学部門との協働)
- 転換契約による OA 推進(研究推進部による英語論文投稿支援事業との密な連携)
 - · Cambridge University Press (2020 年 1 月~)
 - · Rockefeller University Press (2023年1月~)
 - ·Royal Society of Chemistry (2023年 1月~)

- ·Springer Nature (2023年1月~)
- ·Wiley(2024年 I 月~)←新規
- · Elsevier (2024年4月~) ←新規

■ APC 支出実態調査

2023年度財務会計システムの最終数値を取りまとめた(2021年度から継続実施)

目標 1-2:図書館資料の整備と利用のための保存

■ 全館統一資料保存ルールの策定(蔵書管理 WG) 収蔵スペース狭隘化に対応するため、これまで実質的に図書館ごとに定められていた<u>資料</u> 重複判定基準を見直し、統一ルールを策定、学内周知

■カビ対策工事

カビが大量発生した収蔵エリアの対策空調工事の継続実施(2022~2025年度)

- ・エアー搬送ファン等取設工事(2023年10月)
- ・ダクト保温工事(2024年3月)

目標 I-3:知識や情報の発見可能性の向上

- 学習支援活動
 - ・図書館職員及びラーニング・サポーターによる講習会・セミナー等 コロナ禍の経験を活かしつつオンライン・対面・ハイブリッドにより多数実施 (実施 59 件、参加 I52 名)

■ 研究支援活動

・Nature Masterclasses オンラインコース(2022 年 2 月 10 日~2024 年 2 月 9 日) ※研究推進部・経営企画オフィス URA 部門との共催

■ガイダンス

- ・新入生ガイダンス(2024年4月)(実施 12回、参加730名)
- ・日本語、英語、中国語での図書館ツアー、新任教職員向けガイダンス等(2023 年 10 月)
- ・図書館案内動画の図書館 Web サイト公開

■ 電子ブック試読による選書

・和書:235 タイトル(2023年 | 0月 | 1日~2024年 | 月 | 0日)

・洋書:50 タイトル(2023年 11月 13日~12月 15日)

■ 除却資料の学内構成員への無償譲渡(試行) 希望者 108 名に 405 冊を無償譲渡(2023 年 7 月)

■ 被災地支援(能登半島地震への対応)

·ILL 医療文献複写無料提供

石川・富山・新潟各県の大学等機関(病院図書室・個人院を含む)からの文献複写依頼を 迅速に無料で提供(2024年 I~3月)

·図書館利用

被災地域の大学構成員(学生・教職員)への本学図書館(4 館)利用 ※平成28年熊本地震でも実施、これを定型化し今後の激甚災害でも同様に対応予定

重点領域2. 知の創出:新たな知を紡ぐ<場>の提供

目標 2-1:知を創出する場の拡大・整備・提供

■ グループ学習エリアの団体利用の再開(2023年4月) ※コロナ禍ではラーニングコモンズでも個席として利用提供してきた

目標 2-2:社会・地域に開かれた知の創出空間の提供

- 学外一般利用者への利用者票発行・資料貸出の再開(2023 年度後半) 外国学図書館を含む全 4 館の学外者利用をコロナ禍以前の状態に戻す
- 箕面市立船場図書館(外国学図書館)の運営 市立図書館と大学図書館の機能を有する「箕面市立船場図書館」 (2021年5月移転・再開館)の継続運用
 - ・学内他部署及び箕面市等との連携による幅広い活動展開
 - ・教員・学生との連携企画:「大阪大学夏まつり」実行委員会 と連携した絵本読み聞かせ、各国文化紹介等、子ども向け・ 成人向けイベント開催
 - ・市民向け情報リテラシー講座:図書館活用法、地域資料調 査法等の講座を船場生涯学習センターと連携開催



外国語学部ベトナム語専攻 との連携イベント

- ・ 箕面市立小中学校との連携:図書館見学対応のほか、日本語の読解が困難な児童・生徒のため、学校図書館を窓口とした本学外国学図書館資料の団体貸出を開始
- ・地域のボランティアとの連携:乳幼児向けおはなし会・大人向け絵本講座開催
- ・図書展示: 市蔵書・大学蔵書のコラボ展示、船場生涯学習センター生涯学習講座のテーマ関連展示、台湾文学日本語翻訳書籍展(国立台湾文学館主催)等
- ・活動への評価(受賞)
 - · 令和 5 年度国立大学図書館協会賞
 - ·令和 5 年度大阪大学賞(大学運営部門)

重点領域3. 知の媒介:知交流を促す<人材>の構築

目標 3-1:多様な人材との協働

- ラーニング・サポーター (TA) の研修 学習支援の質の向上・維持を目的として、各館のラーニング・サポーターへ本学教員による学習支援のための研修を継続実施
- 全学的及び全国的なオープンサイエンス推進体制への参画(既出:重点領域 | 目標 I-I)

■ 研究科との共同研究:行動経済学の理論を応用した貸出資料延滞の改善院生及び教員から研究の申し出を受け、職員と共同実施(2023 年 I I 月)

目標 3-2:国立大学図書館職員の能力向上

■ 研修の開催:大阪大学職員研修「図書館の危機管理〜利用者対応を中心に〜」

講師:関東学院大学 社会学部現代社会学科 千錫烈教授

日時: 2023 年 8 月 3 1 日(木) 13:00~15:15

参加:43名(本学図書館職員、箕面市立図書館職員、箕面市立船場図書館業務委託会社スタッフ)

内容:図書館で起こりうる危機のうち、特に利用者対応について、大学図書館と公共図書 館双方の事例に詳しい講師による講演とグループ討議により危機管理への理解を深 めた。

■ 国大図協近畿地区協会事業「きみも大学図書館で働いてみないか」(通称: キダハミ) (主担当大学:京都大学、大阪大学、神戸大学)

新しい人材の獲得を目的として、Web 広報や以下のイベントを実施

- ・近畿地区国立大学法人等職員統一採用試験説明会(オンライン)(2023年4月22日)
- ・現役職員の就職・キャリアアップ体験談、就職に役立つデータベース検索講習会、謎解き ゲーム「The Post-Gutenberg Galaxy」(2024年3月1日、於京都大学附属図書館)

その他

- 「京阪神デジタル・ライブラリー構想」における取り組み
 - ・新たな大学図書館機能の実現に向け、京<u>阪神3大学図書館の連携・協力活動に係る協定</u>書を締結(2023年6月)
 - ・京阪神3大学図書館ライブラリー・スキーマ検討WG始動(2023年9月)
 - ・3 館同一設問による附属図書館利用者アンケート実施(2024年 1~2月)
 - ・京阪神3大学図書館ライブラリー・スキーマ作成(2024年2月)
- 学生等利用者の意見吸収の強化
 - ・館長のビデオメッセージを図書館 Web サイトで公開(2023 年 10 月) 昨年度からの光熱水料高騰の影響による開館時間短縮を契機として実施
 - ・本学学生と館長・副館長とのオンライン懇談会を開催(2023年12月)
 - ・学生の要望を直接館長・副館長が聴き意見交換する場を設定
 - · 今後、定期開催予定
 - ・学生からの意見・要望聴取のための Web フォームを新設

大阪教育大学附属図書館の協会ビジョン 2025 に対応した取り組み 2023 年度(2023 年 4 月~2024 年 3 月)

重点領域 1.知の共有:蔵書を超えた < 知識や情報 > の共有

目標 1-1) 教育研究成果の発信、オープン化と保存

- (1) 機関リポジトリについて、登録コンテンツ数の増加を進め、紀要論文コンテンツ等への DOI 付与を実施するともに、学内への広報を強化し、取り組みを推進している。
- (2) 大学の教育研究成果の発表誌として、査読制を導入した『大阪教育大学紀要』(Memoirs of Osaka Kyoiku University)を継続的に発行し、教育研究の質向上への貢献と成果のオープンアクセス化・長期保存を図っている。2023 年度は冊子発行を廃し、電子版のみとした。
- (3) 研究データ収録への対応のため、学内特別予算による業者委託にて、従来のリポジトリシステムから JAIRO Cloud (weko3) へ移行した。

目標 1-2) 図書館資料の整備と利用のための保存

- (1) 蔵書利用状況,電子資料のアクセス状況等の実態を把握し,所要経費について学内措置を進めた上で適切な資料整備につとめ,本学構成員に即した利用環境を整えている。
- (2) Elsevier 社の ScienceDirect, Scopus について、東京学芸大学を窓口に複数の教育系大学の契約を取りまとめることにより、JUSTICE 提案を基本とした教育系大学の事情に配慮した特別措置が適用されている。本学もこの契約に継続的に参加している。
- (3) 契約中の電子リソースについて、本学教職員・学生の利用状況や要望の把握を目的としたアンケートを実施した。

目標 1-3) 知識や情報の発見可能性の向上

- (1) 未登録資料の遡及入力を継続的に実施し(2023 年度は 3 月末時点で 3,052 件の遡及済),国内・海外の教科書コレクションの整備・充実を図っている。
- (2) ディスカバリーサービスとして、EBSCO Discovery Service を活用した検索ツールを提供している。本学に必要な教育学系および日本語文献等に特化した情報が効率的に発見できる環境を構築するとともに、リンクリゾルバーによる四教育大学(大阪・京都・奈良・兵庫)を対象とした所蔵確認を図書現物取寄せ無料化の実施に役立てている。



¹ 文献データベース等の検索結果から、文献の適切な入手方法・入手経路を案内するシステム

重点領域 2.知の創出:新たな知を紡ぐ<場>の提供

目標 2-2) 社会・地域に開かれた知の創出空間の提供

- (1) 柏原本館, 天王寺分館とも, 資料利用を目的とした学外者の来館を受け入れている。
- (2) 柏原本館では、学外からの来館者(修学旅行・大学見学者等)にツアーを実施している。
- (3) 大学が取組む事業「大阪府立八尾高等学校生徒への一部授業の公開」を踏まえ、天王寺分館において同高校生に対し、学外者と同一利用条件で資料の館内利用及び館外貸出を行っている。

重点領域 3.知の媒介:知の交流を促す<人材>の構築

目標 3-1) 多様な人材との協働

- (1) 柏原本館において大学院生をサポートスタッフ (TA) として配置し、学部学生の学習相談や 図書館利用案内などを行っており、レポート作成に関わる講習会等も開催している。
 - ① 教員と協働による卒論・レポート作成のためのワークショップを開催。(5月)
 - ② レポートの書き方講座を開催。(11月)
- (2) 柏原本館において、以下のガイダンス・講習会等を実施した。
 - ① サポートスタッフと協働で新入生向けツアーを実施。(4月)
 - ② 教員からの依頼を受け、授業やゼミでのガイダンスを実施。
 - ③ 教員,サポートスタッフとの協働により卒論・レポート作成のためのワークショップ,講習会,資料検索講習会を開催。(7月,10月)
- (3) 6月に,東京書籍株式会社とエプソン販売株式会社から講師を招き,デジタル教科書・電子黒板体験会を実施した。
- (4) 柏原本館・天王寺分館において東京書籍株式会社から講師を招き,デジタル教科書を用いた 授業を実施した。
- (5) 天王寺分館において、以下のガイダンス・講習会等を実施した。
 - ① 大学の新入生ガイダンスにて図書館の説明。2021年度からは案内動画を作成し、会場で上映している。
 - ② 初等教育教員養成課程の教員要望により、小学校教育専攻(夜間コース)の1年生に対し 例年どおり、年度初めに図書館利用案内や学術情報についての考え方、蔵書検索の仕方、 CiNiiでの雑誌論文検索方法のガイダンスを実施。
 - ③ そのほか、教員の依頼によるゼミ単位での文献検索講習会を実施。
- (6) 天王寺分館閲覧室内で, 初等教育教員養成課程幼児教育専攻3回生の学生による企画展示「いるいろな人たちの世界 ~絵本から見る多様性~」(期間:2023年10月5日(木)~12月22日(金))を実施した。

目標 3-2) 国立大学図書館職員の能力向上

(1) 全学的に重要なプロジェクト(教育 DX 推進, IR (Investor Relations)活動, 研究データ管理 (RDM) 等) に図書館職員が積極的に参加し, これまで培ってきた学術資料に関する専門的知識を活かし, 新たな知識の習得も図りながら, 大学の課題解決に貢献する中で専門的能力の向上を図っている。あわせて, 大学の特性にあった図書館機能のあり方も検討し, 職員に求める役割の明確化も検討している。

兵庫教育大学附属図書館 令和5年度活動報告 (2024.4.1)

1. BLUE CLASS (青空教室)

(1) BLUE CLASS が国立大学図書館協会賞を受賞

6月22日に、一橋大学 一橋講堂にて開催された第70回 国立大学図書館協会において、BLUE CLASSの取り組みが第58回国立大学図書館協会賞を受賞しました。





(2) インタビュー動画シリーズ「The Master」をスタート

「人生で最も影響を受けた恩師」の思い出をモノローグで語るシリーズ企画。第1回は、霊長類学者の山極壽一氏を迎え、恩師・伊谷 純一郎氏(京都大学名 誉教授・生態学者)の思い出を語っていただきました。BLUE CLASS ウェブサイトより動画公開。右写真は、ホテルの一室を借りた撮影セット風景。





(3) 県内図書館連携企画

東経 135 度線上にある淡路市立図書館、明石市民図書館、西脇市立図書館等のスタッフが、同じく 135 度線上にある本学を訪問されました。コーディネータは、アカデミック・リソース・ガイドの岡本真氏。兵庫県内の図書館を館種を超え「縦」につなぐ連携企画を構想中。





(4) 国際オープンアクセス週間にヨガイベントを開催

ヨガ・インストラクターの国際資格をもつ本学大学院生が講師となり、大学のキャンパス緑地で、アウトドア・ヨガイベントを開催。本学所属員だけでなく、一般参加も歓迎のオープンで参加無料の本イベントは、オープンアクセスウィークの 2023 年テーマ「商業化を超えたコミュニティ」を意識したもの。





2 教材文化資料館企画展

教材文化資料館は、附属図書館のなかにある小さな展示室です。 年 $1\sim 2$ 回の企画展を開催しています。 今回の企画展は、NHK 朝ドラ『らんまん』の影響で多数の来場者に恵まれました。

「植物に恋して-牧野富太郎のいざない-」展 2022.6.19~2024.2.23











関連イベント「植物ラリー」にご参加いただいた方には、もれなく賞品として資料館オリジナルの賞品をプレゼント。展示していた収蔵資料を活用した T シャツ・クリアファイル(3種)・ステッカーを作成しました。

令和5年度 神戸大学附属図書館の特色ある活動報告

■ 自然科学系図書館リニューアル記念イベント開催

令和5年4月にリニューアルオープンした自然科学系図書館は、ハイブリッドの会議やプレゼンが可能な機器を備えたイノベーションスタジオ、畳コーナーやオンラインポッド(オンライン利用のための個室)等様々なタイプの学修エリア、学内共同利用書庫スペース等を備えています。

オープン記念式典の他、図書館やキャンパスに関連したクイズを解く「スカベンジャーハント」、化合物をカードゲームにし



【芳香族神経衰弱】

た「芳香族神経衰弱」など、利用促進を目的としたリニューアル記念イベントを開催しました。

■ 館内施設の Web 予約

グループ学習室やオンラインポッドなどの予約スペースを、図書館システムから予約できるように しました。利用者は Web 上で空き状況を確認して、自身で申し込みができるようになり、カウンター 業務の省力化にもつながっています。

■ ネーミングライツによる資金獲得

日本無線株式会社、シナジーマーケティング株式会社とネーミングライツ・パートナーの協定を締結し、資金を獲得しました。

- · 海事科学分館学生自習室:「JRC Biblio」(令和5年1月~令和7年6月)
- · 社会科学系図書館 LC:「SynergyMarketing 101 Studio」(令和 5 年 7 月~令和 8 年 6 月)

■ 「西洋古典資料保存講習会」の開催

国大図協近畿地区協会の助成事業として、兵庫県大学図書館協議会、 一橋大学社会科学古典資料センターと共催で「西洋古典資料保存講習 会」をハイブリッド形式で開催し、31 機関 82 名の参加がありました。

■ 図書館利用者アンケートの実施

1月18日~2月29日に学内利用者を対象とした図書館利用者アンケートを実施しました。



【西洋古典資料保存講習会】

I. 研究活動支援

■ 京都大学附属図書館、大阪大学附属図書館及び神戸大学附属図書館の連携・協力活動に係る協定の 締結

6月22日に、オープンサイエンス時代に即した大学図書館機能の実現に向けて、学術情報資源の確保 と創出、研究成果発信の支援について3大学の図書館が連携・協力していくため、協定を締結しました。

■ 人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業 (JSPS) 委託業務に採択される 人文学・社会科学に係るデータ基盤 (JDCat) の充実を目指し、当館のデジタルアーカイブ 3 本柱である「新聞記事文庫」「震災文庫」「貴重書」のデジタル化の推進と利活用の拡充を図ります。

■ 図書館担当 URA 採用

3月1日より、学術情報流通活性化に関わる業務に従事する URA を 1 名配置しました。学術情報流通の現状把握や本学研究者の論文出版状況の調査・分析などの職務を担当します。

■ 職員海外派遣

国立大学図書館協会資料委員会、JPCOAR の助成を受けて、下記調査へ職員 3 名を英国へ派遣しました。また、3 月 15 日、18 日に報告会を実施しました。

- 英国オープンアクセス政策等調査(令和6年2月10日~18日)
- · IDCC2024 出席及び大学での聞き取り調査(令和6年2月17日~25日)

Ⅱ. 学修サポート

■ ひとくち resource discovery

オンデマンド型のガイダンスとして、図書館サービスの利用方法や、OPAC や各種データベースの使い方など、テーマごとに 2 分~10 分程度の短い動画 15 本 (学内限定公開含む) を、公開しました。

■ 学生選書ツアー

10月27日にジュンク堂書店三宮店で、学生が図書館の蔵書を選ぶ「学生選書ツアー」を実施し、院生・学生の計14名が参加しました。参加者が選定した図書は、総合・国際文化学図書館に配架されます。



■ 学生チーム「ULiCS」の活動

(1) 「THE ULICS TIMES」の発行

2017年から、ULiCS の活動媒体誌として、各イベントの詳細報告や他大学との交流会のレポート、書評等を掲載し、継続的に発行しています。今年度刊行した Vol.13、Vol.14 には、神戸松蔭女子学院大学との交流会実施報告や、知るカフェとのコラボ企画報告などを掲載しました。

(2) 「全国大学ビブリオバトル 2023」関西 B ブロック地区予選を開催

10月19日に自然科学系図書館イノベーションスタジオで4名のバトラーによる関西Bブロック地区予選を開催しました。チャンプ本を獲得した学生は、関西Bブロック決戦を勝ち抜き、全国大学ビブリオバトル2023本戦でチャンプ本を獲得しました。

■ ネーミングライツ提携社のイベント

1月9日に社会科学系図書館 SynergyMarketing 101 Studio で、ネーミングライツパートナーであるシナジーマーケティング社による学生向けのイベント「10,000 人以上の面接から見えてきた!自己分析の落とし穴と満足度の高い就活の進め方セミナー」を開催いたしました。

Ⅲ. 社会連携・情報発信

■ 令和5年度資料展「1933 — 社会科学系図書館誕生 90 周年 一」 毎年、図書館所蔵資料を利用した展示会を実施しています。 今年度は、社会科学系図書館本館竣工から 90 周年を記念し、当時の 図書館や前身の神戸商業大学の様子をご紹介しました。



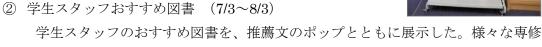
奈良教育大学図書館 令和5年度の特色ある取り組み

令和6年4月

1. ブック展示

① SDGs 関連図書 (5/9~6/8)

「SDGs」で掲げられている目標を取り上げ、関連する図書の展示を行っている。今回は「8.働きがいも経済成長も」「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」に関連する図書の展示を行った。



の学生が選定したため、バラエティ豊かなラインナップになり、貸出も多かった。

③ 防災教育関連図書(9/5~10/12)9月1日の防災の日にちなみ、防災について考えるヒントとして、防災教育関連図書の展示を行った。

2. 学問祭における推薦図書の展示

集中講義形式で学問の面白さや奥深さを感じることができる新たな教養教育科目「諸学への誘い」と関連イベントをセットにした「教養教育ウィーク 奈良カレッジズ学問祭」が開催された(8/24~8/30)。昨年度法人統合し



た奈良女子大学との取り組みで、図書館では登壇した講師の推薦図書を準備し、学問祭終了後に奈良カレッジズ交流テラス(奈良国立大学機構法人本部棟1階)などで展示されたのち、図書館でも講師の推薦文とともに展示を行った。(11/6~11/30)

3. 大学の特色を踏まえた学習資料の充実化

本学の特色ある教育研究の一つである「文化遺産教育」関連図書について、担当教員の協力を得て重点的に整備した。

4. 授業関連図書コーナーの整備

図書館運営委員会委員の協力のもと「各学問分野の初学者に読んでもらいたい図書」を推薦してもらい、ブックガイド「理科教育学の本棚」「西洋史の本棚」を作成して図書館ホームページでの公開と授業関連図書コーナーでの配布を行った。推薦図書には「初級」「中級」とい



ったレベル付けを行い、レベルに応じたシールを貼って授業関連図書コーナーに配架する とともに、一部の図書については、教員からの推薦コメントをポップにして書架に掲示した。

5. 展示会の開催

図書館の展示コーナー (ライぶらりギャラリー) において、図書館主催の展示会「正倉院 模造復元品展」を実施した (10/23-11/14)。また、授業と連動した以下の展示でも広く活用 された。

- •「奈良教育大学美術教育専修 工芸研究室有志作品展 自然 - 」(4/10-4/14)
- ·「成果発表書作品展」(8/5-8/17)(3/6-3/18)
- ·「This is me.」(美術教育専修 2 回生授業「絵画 II」作品展)(1/23-1/29)
- ・「Math Art 展」(後期授業科目「数学教育論」授業作品展)(1/30-2-13)
- ・「先進機器で蘇る地域の文化財」(文化遺産教育授業作品展)(1/30-2-13)
- ・「かず・かたち絵本展」(2/2-2-13)(後期授業科目「子どもと環境」授業作品展)※
- ·「新理数教育IV」成果発表「教科書研究展」(3/27-4/15)



かず・かたち絵本展 ※えほんのひろばで実施



成果発表書作品展

6. ブックハンティングの実施(オンライン)

例年実施している、学生によるブックハンティング(選書ツアー)を行った。今回は、10/11~10/25を選書期間として、書店ウェブサイトを使用したオンライン形式で実施し、12名が選定した図書70冊を購入した。購入した図書は、学生が作成したポップとともに展示し、多数の貸出があった。





7. オンライン投票による教職員・学生参加型選書の実施

奈良教育大学及び奈良女子大学の教職員・学生を対象に、図書館の職員がピックアップした本の中から「奈良教育大学図書館に置いてほしい!」と思う本にオンラインで投票してもらう企画を実施した(2/2-2/12)。両大学で74名から合計1,166票の投票があり、得票数の多い図書を中心に分野等のバランスを考慮して123冊を購入した。

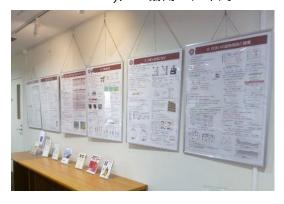
奈良女子大学 令和5年度特色ある取り組み

I. 図書館運営

奈良国立大学機構として奈良教育大学との連携を図り、図書館システムの共同調達に向け仕 様策定等を進めました。

Ⅱ. 企画展示

2F 展示コーナーでは、年間テーマ「身の周りの暑さ・寒さのエトセトラ ー 快適から健康まで」として計測機器と関連図書を展示しました。また、学生アルバイト(通称 LiSA(Library Student Assistant))と協働で、年間テーマに関連した展示等を随時行いました。





〇企画展示『おうちの本棚』 9~12月



利用者からお薦めの本を募集し、展示企画をしました。「キッチン・リビング・自分の部屋・お風呂・トイレ」など、それぞれの部屋に置きたいおススメの本を展示しました。

○ブラインドブック「『冒頭文』だけで本と出逢っ展(てん)」 1~2月

「本の冒頭文のみの情報で気になった本を選んで借りて頂く」という趣旨の企画展示をしました。



Ⅲ. サービス企画

○クイズラリーの実施 4月~5月

館内セルフツアーとして、クイズを解いたり資料を探しながら館内のチェックポイントを回るクイズラリーを行い、参加者にはオリジナルしおりを進呈しました。参加者は新入生とそれ以外で半々でした。

○学生選書(シール投票) 12月

職員が作成した選書リストにシール貼付または web フォームにより投票してもらい、得票上位の約 90 冊を購入しました。奈良教育大学との相互利用促進を期して奈良教育大学図書館にも投票所を設けました。

IV. 「電子画像集」(貴重資料画像集)更新

奈良女子大学では所蔵者や奈良国立博物館の協力を得て、主に奈良県内の寺社・関係機関が 所蔵する資料の電子化事業「奈良地域関連資料データベース」を継続して実施しています。 令和5年度は2つの機関が所蔵する資料計6点を電子化・公開しました。

【令和5年度公開資料】

- ·「毘沙門天立像」(持聖院蔵)
- ·「両界曼荼羅 胎蔵界」(持聖院蔵)
- ・「両界曼荼羅 金剛界」(持聖院蔵)
- ·「天部形立像」(持聖院蔵)
- ·「葛城入峯日記」(阪本龍門文庫所蔵)
- ·「御成敗式目唯淨裏書」(阪本龍門文庫所蔵)



『両界曼荼羅 胎蔵界』(部分)(持聖院所蔵)

(C)2023 持聖院, 奈良国立博物館, 奈良女子大学学術情報センター

2023 (令和 5) 年度 和歌山大学図書館 活動報告

令和6年4月

1. 図書館 LA による Instagram を使った図書館案内 (7月~)

図書館 LA(ラーニング・アドバイザー)による Instagram を使った図書館案内を開始した。 新着資料、館内情報等、最新の情報を随時更新している。



2. 図書館 LA ミニ講習会 2023 の開催

- ・就活入門セミナー(10/31)・決算書の読み方入門編(11/27)
- ・誰でもできるパワポ活用術(12/1) ・卒論に向けた研究テーマ発見 WS(2/2)
- ・LGBTQ+とフェミニズム ※オンライン開催(一部、対面とオンラインによるハイブリッド開催)









3. 図書展示

職員によるテーマ選定および展示

- ・伝える プレゼンテーション ・平安
- ・好奇心を刺激する本との出会い
- ・海 vs 山 ・メンタルヘルス ・広島・長崎 ・内定者必読

- · 和
- ・英国
- ・みんなのまちづくり

4. 読書会の実施

経済学部教員有志が編集する書評誌「リトルネロー編集 委員会と図書館主催で『三体』の読書会を開催した。 (11/6) 10 名参加

※対面とオンラインによるハイブリッド開催



5. 「レポート作成応援講座」の開催

講師:経済学部特任助教

対象:本学の学部1~2年生(3年生以上も可)

- ・イチから分かるレポートの書き方(5/16 開催)18名参加
- ・30 分でおさらいするレポートの書き方~引用・参考文献リストを中心に~(2/5 開催)
- **6. 図書館システムの更新(2023 年 8 月末):**E-Cats Library (Ver. 7) 導入

令和 5 年度 奈良先端科学技術大学院大学附属図書館 特色ある活動の報告

1. 知の森コーナー

学内から募集したテーマや図書館職員が設定したテーマに沿った 資料を選び、「知の森コーナー」として展示している。令和 5 年度の知 の森コーナーのテーマは以下のとおり。



令和5年度知の森コーナー展示企画一覧

実施回	実施時期	テーマ
第 37 回	2023 年 3-7 月	百花繚乱
第 38 回	2023 年 7-12 月	AI
第 39 回	2023年12月-2024年3月	冬のオノマトペ
第 40 回	2024年3月-	家でできるかな?

2. 授業アーカイブ構築事業の終了

図書館システムのリプレイスに伴い、本学オリジナルで開発・運営してきた授業アーカイブシステム終了し、市販システムPanoptoに移行した。

本システムは履修者に限定し、履修期間のみの公開が可能であり、著作権第35条を用いた講義映像の 運用が可能になっている。

3. 学術リポジト Unaistarの JAIRO Cloud (WEKO3)への移行

本学リポジトリnaistarは昨年2月にJAIRO Cloudに移行し、9月WEKO3へのバージョンアップに伴い、 JPCOARスキーマ対応が完了した。

4. 誓約書・閉架書庫資料閲覧利用申込書のForms化

学内のペーパーレス化を受け、電子化資料利用の誓約書、閉架書庫資料閲覧利用申込書を Microsoft365のFormsを使い、申し込みを受け付ける。利用規程を整備し、令和6年4月より運用開始予定である。

2023 年度 国際日本文化研究センター図書館活動報告

1. 近代日本美術展絵葉書データベースの公開

2023年6月、「文展」(文部省美術展覧会)、「帝展」 (帝国美術院展覧会)、「新文展」、「二科会」の展覧会 を中心に、日文研が蒐集した各美術展開催時に発行さ れた出品作品の絵葉書画像を掲載したデータベース 「近代日本美術絵葉書データベース」を公開した。 画像については、著作権保護期間が終了したものの

画像については、著作権保護期間が終了したものの み公開しており、現在は文展第1回から第12回まで、 帝展第1回から第5回までの絵葉書を掲載している。

(https://tenrankai.nichibun.ac.jp/top)



2. 日文研デジタルアーカイブの公開

2024年3月、貴重資料を始めとした日文研所蔵資料の電子化及び公開を促進するため、「日文研デジタルアーカイブ」を公開した。IIIFに対応し、高精細画像をスムーズに閲覧することができる。第一弾として、吉田初三郎式鳥瞰図、絵巻物、風俗図会の各データベースのコンテンツ計1,499件を公開しているが、今後も貴重資料を中心に、所蔵資料を順次公開する予定である。

また、掲載されている画像データと書誌情報は、誰もが 自由に利用できる形で公開しており、調査・研究、教育お よび生涯学習など幅広く活用することが可能である。

(https://da.nichibun.ac.jp/)



3. EAJRS (日本資料専門家欧州協会) 年次集会 2023 への参加

2023 年 9 月 13 日から 16 日の日程で、ベルギーのルーヴァンにおいてハイブリット形式で開催された「第 33 回日本資料専門家欧州協会(EAJRS)年次集会」に、日文研図書館から、関野情報管理施設長と職員 1 名が参加し、会場内でのブース出展を実施するとともに、他機関のブース見学やワークショップにも積極的に参加し、欧州の図書館司書・日本研究者らとの交流を深めた。



4. 東亜図書館協会 (CEAL)・北米日本研究資料調整協議会 (NCC)・アジア研究協会 (AAS) 2023 年次集会への参加

2023 年 3 月 13 日から 16 日の日程で、アメリカのシアトルにおいて開催された東亜図書館協会等に、日文研図書館から、職員 1 名が参加し、AAS レセプションにおいて日文研図書館のサービスについての発表を行うとともに、各国の日本資料専門家に対する積極的な広報と情報交換・ネットワーク構築を行った。

5. 同志社大学図書館司書課程「図書館実習」の実習生受入れ

2023年8月28日(月)~8月31日(木)にかけて、同志社大学図書館司書課程の「図書館実習」に協力し、実習生1名を受入れ、各図書館業務の実習を実施した。実習生の受入れは、2019年度まで毎年行っていたが、コロナ禍のため2020年度からは受入れを中断していた。



6. 国立国会図書館令和5年度係長級職員研修「外部機関実習」の実習生受入れ

2023 年 10 月 17 日 (火) に、国立国会図書館の係長級職員研修の「外部機関実習」に協力し、実習生 2 名を受入れ、日文研図書館業務の調査・体験実習を実施した。なお、実習生の受入れは、2015年度以来 8 年ぶりの受入れとなった。

7. 研究成果の公開

日文研が所蔵する貴重な資料群の研究成果を一般向けに公開しているデータベースに、新たに収集 された資料も電子化し、追加した。

公開データ追加(2023年4月1日から2023年2月29日まで)

- 近世期絵入百科事典(4,472件)
- 日本関係欧文貴重書(27件)
- 古事類苑全文(1,041頁分)
- 鯰絵コレクション (1件)
- 摂関期古記録 (新規公開史料8件、継続史料のテキスト追加1件)
- 怪異·妖怪伝承 (6件)
- 吉田初三郎式鳥瞰図 (104件)

8. 美術館・博物館等への図書館所蔵資料出展開

○ 神戸市立博物館 特別展「Colorful JAPAN:幕末明治手彩色写真への旅」(2024年3月29日(金)~5月19日(日))「秋草に鳥の飛ぶ図・蒔絵アルバム」ほか横浜アルバム 計6点

9. 日文研オンライン一般公開での図書館所蔵資料の展示

2023年11月27日から12月1日の日程で、ハイブリット形式で開催された「日文研一般公開アジアの中の日文研」で、現地開催企画「ミニ展示コーナー」を設置し、11月15日に放送されたNHK Eテレの番組「ザ・バックヤード」で紹介された資料を始め、日文研の貴重な資料のレプリカや、来所者が自由に持ち帰ることができる冊子を展示した。



以上

令和5年度 国立民族学博物館図書室活動報告

1. 資料の整備

・マイクロ資料の遡及入力について、3,160件の遡及入力を行った。(令和6年2月末現在)

2. 資料の貸付

・令和6年4月~6月 福岡市博物館 特別展 「驚異と怪異 -想像界の生きものたち」へ、図書26点を貸付。

3. 所蔵資料の特別利用(画像の提供など)

・令和 5 年 10 月放送の「ザ・バックヤード 〜知の迷宮の裏側探訪(NHK E テレ)」にて、図書室所蔵の貴重資料である「カウフマン・アフリカ古地図コレクション」が撮影、放送された。

4. 国立民族学博物館への展示資料の提供

・国立民族学博物館で開催された展示のために図書室の資料の提供を行った。 本館展示:「中国地域の文化展示」(本館展示):(4月)12冊、(10月)13冊 特別展示:「日本の仮面」(令和6年3月28日~6月11日):1冊

5. 図書室見学・案内

外来研究員オリエンテーション / 総合研究大学院大学新入生ガイダンス / 国際ファッション専門職大学学生見学 / 中西コレクション寄贈者見学 /人文知コミュニケーター資質向上プログラム研修 /東京芸術大学楽理科学生見学 / JAICA 受託研修 / 国立アイヌ民族博物館来訪者見学、などを実施した。

6. 職場体験活動の受入

・令和5年11月8日に豊中市立第八中学校から2名の中学生の職場体験を受け入れ、カウンター業務、雑誌受入、リポジトリ登録などの体験指導を行った。

7. 新型コロナ感染症対策

・新型コロナウィルス感染症が令和 5 年 5 月 8 日に 5 類感染症となったことを受け、閲覧席の間引きの廃止、アクリルパーテーションの除去等の対応へ変更し、新型コロナウィルス感染拡大前と同等の利用が可能となった。